

湖東普及だより

H23
夏号

編集発行 滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：小原安雄）
彦根市元町4番1号
TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp
ホームページアドレス：http://www.pref.shiga.jp/hikone-pbo/nogyo/

あなたも直売所に出荷してみませんか！

直売所出荷準備号

湖東管内には常設や週1～2日営業、さらに無人販売などを含めると20か所を超える農産物直売所があります。新鮮で安全・安心な農産物や加工品を求める消費者で各直売所とも朝早くから賑わいをみせています。

昨年度は愛荘町で、本年度には甲良町でも新たな直売所が開設されるなど、直売所を核とした地産地消の取組は今後もまだまだ伸びる余地があると期待が寄せられています。

直売所の売れ筋品目はこれ！

1	切り花（仏花含む）
2	ハウレンソウ ←
3	加工品（総菜含む） ←
4	キュウリ ←
5	ナス ←
6	トマト ←
7	ネギ ←
8	キャベツ
9	ダイコン
10	タマネギ

（JAの常設直売所4店舗における販売件数ランキング）

課題1

出荷販売される時期がかたよる。

課題2

常時出荷者が登録者数の1～2割程度にとどまり、出荷量が少ない。

- ・午前中で品切れ状態となることが多い。
- ・品目や数量が偏らないようにしてほしい。
- ・果物（果樹）がもつとほしい。
- ・土物（タマネギ、ニンジン、ジャガイモ）は年中ほしい。
- ・彼岸や盆、毎月1日、15日には切り花が欠かせない。

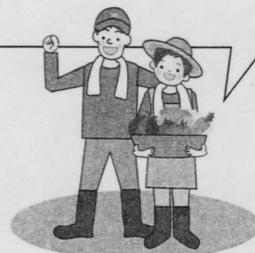
- ・少量でも出荷ができ、自分で価格をつけて売る楽しみがある。
- ・売れた時の喜びは大きく、おもしろさ、意欲がわいてくる。
- ・生産者同士の交流の場となり、色々な情報が得られる。

直売所や消費者の声



こんな利点も
あります！

生産者の声



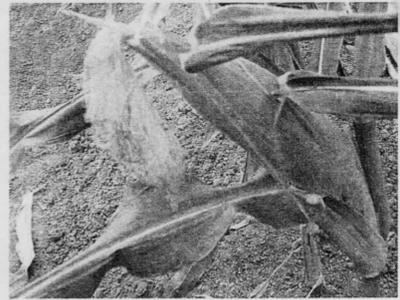
販売動向や消費者のニーズを的確に捉えて、品目や品種、ハウス利用など栽培上の工夫をこらしながら直売所での出荷販売に挑戦してみましょう！！

露地栽培でひと工夫！出荷時期をずらしましょう。

夏の定番を秋にも出荷！！

秋穫りスイートコーン〔主な品種：キャンベラ90 ピーター610〕
播種：7月中旬～8月上旬 収穫：10月上旬～下旬

夏場はたくさん出荷されますが、秋にはほとんどありません。
秋祭りなどイベントが多い時期の収穫になるので需要が大きいです。
栽培方法は夏穫りと同様ですが、台風やカラスに注意が必要です。



上手に保存して長期間出荷！！

秋じゃが〔主な品種：デジマ 農林1号〕
定植：8月下旬 収穫：11月下旬～12月上旬

2℃程度の冷暗所で湿度を保つと、長期間保存できます。
直射日光は厳禁、蛍光灯の光でも緑化します。
冬は土中で保存が可能です。



タマネギ〔主な晩生品種：ネオアース もみじ3号〕
播種：9月下旬 定植：11月下旬 収穫：6月下旬

早生・中生品種の栽培が多く、収穫・出荷時期が集中します。
貯蔵性に優れる晩生品種と組み合わせれば、長期間出荷できます。
多肥栽培や追肥（3月下旬まで）の遅れは、腐敗しやすくなります。
収穫後はしっかり乾かし、日陰の風通しのよい場所につるします。



作業の少ない冬から春に長期間出荷！！

ナバナ〔主な品種：花飾り 花ぐるま〕
播種：9月上旬～10月中旬 収穫：12月上旬～4月下旬

冬から春にかけて長期間収穫できる数少ない野菜です。
最も労力を必要とする収穫期に、他の品目との作業競合が少ない。
アブラナ科野菜の連作（根こぶ病）に注意してください。
直売所での販売だけでなく、市場出荷も可能です。



無加温ハウスを利用して、冬場にも花きを出荷！

ストック〔主な品種：カルテットシリーズ（スプレー）、アイアンシリーズ（一本立ち）〕

頂上の花が開花するころに芯をつまんで分枝に花を咲かせて収穫する『スプレー系品種』と、芯をつままず栽培する『一本立ち品種』があります。

☆どちらの品種も色がミックスされた小袋が販売されています。

播種：7月下旬～8月下旬 収穫：12月～3月

時期をずらして順次播種すれば、長期間収穫・出荷できます。
直売所で販売する際には何色かを組みあわせる等、工夫しましょう。
コナガ（害虫）の侵入を、サイドネット等で防いでください。



直売所での有望品目！果樹をつくってみませんか。

表 おもな果樹の特徴

管理作業	樹種	おもな品種	収穫時期（目安）	注 意 点	年間防除回数（目安）
比較的少ない	イチジク	樹井ドーフィン	7月下旬～10月下旬（ハウス）	果実は傷つきやすく、日持ちしない 収穫期間が長い	7回 （ハウス）
	ブルーベリー	ウッダード、ホームベル、ティフブルー、デライト	7月中旬～8月中旬	収穫・選別に時間がかかる、酸性土壌を好む 農薬が少ない、2品種以上の混植・交配が必要	4回
	ミカン	宮川早生、興津早生、ゆら早生	10月中旬～10月下旬	寒害に遭う恐れがある、全国的には生産過剰なため、地場産ニーズ部分のみ生産可能	9回
	ク　リ	国見、筑波、有磨、石鎚	9月中下旬～10月中旬	樹高が高くなりやすい 複数品種の混植が必要	6回
比較的多い	ブドウ	竜宝、紅伊豆、紅富士、ピオーネ、藤稔、シャインマスカット、サニールージュ	8月上旬～9月上旬（雨よけ）	種なしにするにはジベレリン処理が必要 果樹棚が必要 雨よけ栽培で病気にかかりにくく作りやすい	7回 （雨よけ）
	モ　モ	あかつき、清水白桃	7月下旬～8月中旬	収穫期間が短く、労力が集中しやすい 清水白桃は生理落果しやすい	12回
	スモモ	大石中生、ソルダム、サンタローザ	7月上旬～7月下旬	2品種以上の混植・交配が必要 開花期の気温が低いと結実が悪い	13回

○果樹栽培上の注意点

- ・果樹の植え付けは秋（11～12月）および春（3月）です。
- ・日当たりと排水のよいところ、水やりのできるところに植えます。
- ・鳥害対策、場合により獣害対策が必要です。

栽培を始めるにあたって、
なにかガイドブックはないの??

栽培について詳しく勉強
したい!



野菜の作付けへの助成は
ありますか??

野菜・花き・果樹栽培ガイドブックが、湖東地域農業センターより発行されました。キャベツ、ジャガイモ、ダイコン、タマネギ、ニンジン、ハクサイ、短茎小菊、ブドウの栽培について紹介されています。



滋賀県立農業大学校就農科では、就農を目指す人に向けて、実践研修を行っています。専攻コースには野菜・花き・果樹があり、修業年限は1年間です。研修希望の方は当課まで事前にご相談ください。

野菜の生産量を増やすことを目標に、野菜の生産面積を増やした場合や学校給食向けに野菜を生産した場合に、助成を行なっています。

<しがの水田野菜生産拡大推進事業>

集落営農組織や野菜生産組織、野菜販売農家が、野菜の生産面積を増やされた場合に助成されます（助成額は、面積を増やされる状況に応じて10,000円以内／反または30,000円以内／反となっています）。

<学校給食野菜供給拡大事業>

学校給食へ野菜を供給された生産組織などに対して、供給拡大された野菜の面積に応じた支援（年2作で40,000円以内／反）と学校給食向けの食育農園を設置するに当たっての推進助成（20,000円以内／反）があります。

農薬安全使用について ~間違いやすい品目~

皆さんは農薬を使うときにラベルをよく読んでいますか??

☆農薬の使用前には必ず読むようにしましょう。対象作物名、希釈倍率、使用液量、散布量、使用時期（収穫前日数など）、使用回数を必ず確認してください。

Q. 同じ仲間の作物ならどの作物にも使ってもいいの？

A. 使用可能な対象作物名の確認が必要です。特に注意が必要な作物の例をあげてみます。これらの作物は登録が別々になっています。はっきりと区別して使用してください。

「トマト」と「ミニトマト」 「ピーマン」と「トウガラシ」と「シシトウ」



「レタス」と「非結球レタス（リーフレタス等）」 「大豆」と「枝豆」
 「ブロッコリー」と「カリフラワー」 「サヤエンドウ」と「実エンドウ」
 「コマツナ」と「ミブナ」と「ミズナ」 「移植水稲」と「直播水稲」（除草剤）

・・・このほかにも明確に区別されている作物が数多くあります。

播種してから短期間で収穫する『まびき菜』などは、たとえその作物に登録があっても使用できない場合があります。

米トレーサビリティ制度の実施により、下記のととが義務付けられました!!

生産者の皆様が米や米加工品を出荷する際は・・・

①伝票を受領

伝票等を受け取るか、自ら出荷記録を作成してください。

②3年間保存

受け取った伝票や、作成した記録等は3年間保存してください。

③産地を伝達（平成23年7月1日から実施）

必ず産地（〇〇県産等）を伝えて下さい。

（一般消費者へ直接販売する際にも忘れず伝達！）



参事のつづき

「あいさつをする」「はきものをそろえる」「そうじをする」、これは「三つの躰(しつけ)」と呼ばれ、ある企業の社員教育の基本です。あいさつは相手とより良い関係を築く第一歩、はきものをそろえるは小さなこともおろそかにしない誠実さ、先々のことを考える気配り、そうじは働くことの楽しさ、仕事を愛する心を養い、物事のけじめをつけることです。こうした取り組みが品質の良いものづくりにつながります。これは農業にも共通することではないでしょうか。品質が良く、安心して安全な農産物を生産するためには、農作業場の清掃、農機具の整備・点検、肥料・農薬の適正な管理など、日々の清掃、整理・整頓が大切です。